

臨床研究に関する情報公開および研究協力のおお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しております。通常の診療で得られた過去の記録情報をまとめることによって行う研究は後ろ向き臨床研究と呼ばれ、このような研究を行なう際、厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされています。研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。利用する情報からは、お名前、ご住所など、個人が特定できる情報は削除します。また、研究の成果は学会や雑誌等で発表されますが、その際にも個人が特定できる情報は公表しません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、下記の「お問い合わせ先」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。またこの研究については株式会社日立製作所ひたちなか総合病院倫理委員会の許可を得ています。

【研究課題名】鎖骨骨幹部骨折に対する術後鎮痛としての鎖骨筋膜面ブロックの有用性の検討

【研究責任者名・所属】株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 麻酔科主任医長 岡部格

【研究目的】鎖骨骨折に対する神経ブロックは斜角筋間法による腕神経叢ブロックが用いられることが一般的である。鎮痛効果は良好だが一時的な筋力低下と横隔神経麻痺による呼吸機能の低下が問題になることがある。近年、鎖骨骨幹部骨折に対する神経ブロックとして鎖骨筋膜面ブロックの有用性が報告されており、筋力低下と横隔神経麻痺が生じないことが長所である。そこで今回当院で鎖骨骨幹部骨折の術後痛管理に、鎖骨筋膜面ブロックを施行した症例の鎮痛効果と副作用について検討することとした。研究結果は鎖骨筋膜面ブロックの手技の確立と普及の一助となることが期待できる。

【研究期間】倫理委員会承認日～2025年4 年31 日

【対象者】株式会社日立製作所ひたちなか総合病院で、2023 年4月5日～2024 年12月6 日の間に当院で鎖骨骨幹部骨折の手術の際に末梢神経ブロックを施行した症例。

【方法】電子カルテ・麻酔記録より施行した末梢神経ブロック法、局所麻酔薬の種類・濃度・量、術中・術後の局所麻酔薬以外の鎮痛剤の使用量、術後の痛みの程度、離床時期、合併症の有無に関する情報を入手し統計学的な処理・解析を行う。

【問い合わせ先】

株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 麻酔科主任医長 岡部格

〒321-0057 茨城県ひたちなか市石川町 20 番 1 電話（代表）029-354-5111